防災展示場
消防防災関連のアイテムを一堂に展示中！
▶すぐにアクセス

消防防災GIS
活用情報やQ＆A等を掲載しています。地図データやバージョンアップ版のダウンロードもできます。

イベント情報
消防や防災のイベント情報満載！
こちらよりご覧ください

関連サイト
» 総務省消防庁
» 防災・危機管理e-カレッジ
» 消防防災科学センター

お役立ちリンク
» 法令を探す

少年消防クラブリーダー研修会

八戸地域少年消防クラブ育成協議会
（青森県）

事例の概要

〈 経緯 〉
八戸市は青森県内第2の都市で、古くから我が国有数の漁業基地として発展してきた。さらに、昭和39年の新産都市指定を契機に急速に工業集積・都市化が進み、人口24万人を有する全国屈指の水産都市、東北有数の港湾都市としての地位を占めている。一方、町村部は農業が基幹産業で野菜・果実・畜産など農産物の供給機能を担っており、八戸広域市町村圏の圏域全体の人口は36万余となっている。
八戸市内では子供たちを地域防災の将来の担い手として位置づけ、地域ぐるみで子供を育てる場として、昭和51年に2つの少年消防クラブが結成された。その後、年々クラブの数が増加し、平成13年現在では圏域すべての市町村に組織されている。
結成当初は個々のクラブごとに活動していたが、なかなか活発な活動には至らなかった。その要因として、一部の熱心な指導者だけが忙しく、多くの人は活動を人任せにするなど、少年消防クラブの必要性が住民に理解されずに活動が形骸化したため、子供たちが魅力を感じなくなったことがあげられた。
そこで、同じ悩みを持つ指導者が集まって情報交換を行い、運営方法を研究し、活動の活性化を図ろうと、昭和53年に少年消防クラブ育成協議会を結成

した。
少年消防クラブリーダー研修会は、子供たちにとって魅力あるクラブと感じてもらえること、また子供を通じて地域の防災意識を高めることを目的に、協議会が発案して昭和53年8月に第1回目の研修会を開催したものである。平成13年までに1，695人がリーダーとして巣立っている。

〈 内容 〉
小学4年生から6年生を対象とし、夏休み期間中に2泊3日の日程で八戸市郊外の県立種差少年自然の家で行っている（参加者は例年70名前後）。指導者については、八戸市少年団体育成指導員・八戸市子ども会育成連合会及び八戸広域消防本部に依頼し、生活指導・レクリェーション及び防災に関する講習・訓練等をお願いしている。
避難訓練・消火訓練や火災についての講習などを中心に行っているが、レクリエーションなど子供たちが楽しめるものも盛り込んでいる。研修にあたっては、単にプログラムを体験するだけでなく、「各自が主体的に考え判断し、行動すること（考動）」をコンセプトに、「安全に対する知識や能力」、「他人を思いやる心・助け合う心」を学び、所属のクラブはもちろんのこと、家庭や地域で実践できるリーダーの養成を目指している。以下、平成13年の研修会について示す。
第1日目は、自然の家到着後すぐ班編成を行った。1班を5・6名とし、班長や活動係・食事係・掃除係など全員に係りを割り当てた。人選は、班ごとに話し合いで決めるように指導したが、一番仕事の多い班長をやりたいという子は少なく、ジャンケンで決めているようである。昼食後に入所式を行ったが、司会から進行まですべて子供たちが行うようにしている。その後は夕食までゲームを行ったりして緊張感を解き、リラックスさせた。夕食の頃には雰囲気になじんで楽しく食事を摂っていたが、中にはホームシックにかかる子もいた。ミーティングでは、こういった子を特に注意して、気配りを怠らないよう指導者全員に徹底させた。
第2日目は、研修会のメーン行事である消防訓練を行った。所轄の消防署から職員を派遣してもらい、消火器やジェットシューターを使用しての消火訓練、はしご車や起震車・煙ハウスの体験、ロープを使ってのレンジャー訓練などを行った。訓練を行うに当たって注意していることは安全管理で、特に火の使用や高所での訓練ではヘルメットの着用など、念入りに安全を確認した。夕食後は、子供たちが一番楽しみにしているキャンドルファイヤーを行った。
最終日は、研修の総決算として感想文を書いてもらった。新しい友達ができた喜び、班長の役目を果たした達成感、難しい訓練に挑戦した充実感など、3日間の想いがそれぞれ生き生きと綴られていた。

〈 特色 〉
初めて出会った入たちとの団体生活を通して、火災の怖さや災害から身を守る方法などを体験させ、子供のうちから防火防災意識の重要性の向上を図っている。
この研修の中で一番重点を置いているのは、一人一人が考え主体的に行動することを要求していることである。これは、他からの保護や援助が期待できない状況のもとでも適切な判断と行動がとれること、つまり防災対応力の高い子供を育てることを目指している。

入所式

はしご車体験

消火訓練

地震体験

煙ハウス

苦労・成功のポイント

〈 苦労した点 〉

安全面に細心の配慮をしている。会場は市の中心部から遠いこともあり、集合及び帰宅の際に交通事故の恐れがあるため、貸し切りバスを用意して送迎している。研修中においては病気や怪我が心配されるため、就寝時間まで各部屋を巡回して体に変調がないか確認している。また、夜間の急病などに備えて、その日の当番医を確認している。

〈 成功した点 〉

1. 保護者の理解を得て毎年70名前後の参加者があること。
2. 行政及び市民団体からの協力を得られたこと（指導者の派遣）。

3．研修を楽しみながらできるよう、「遊び」の時間を盛り込んだこと。
4．八戸地域少年婦人防火委員会から助成金を得られたこと。

成果・展望

〈 成果 〉
研修を終えた子供たちが、所属のクラブでリーダーシップをとって様々な活動をしている。長年途絶えていた夜回りを復活させたり、地域の防火大会などには積極的に参加するなど、子供たちの防災活動は周りの大人を巻き込み、地域全体の防火防災意識の盛り上がりに大きな影響を与えている。

〈 展望 〉
人が成長していくために必要不可欠で、生きていくうえで最も力になるのは、実際の体験と地域の文化を受け継ぎ身につけることである。しかし、少子高齢化が進み、住民同士のコミュニケーションが希薄になっている中では、このようなことが困難になってきているのが現状である。そういった意味で、この研修会は貴重な存在となっている。訓練を通して災害の疑似体験をし、団体生活の中でコミュニケーションの大切さを体験した子供たちは、地域防災の担い手として成長することが期待される。子供たちの成長を願って、防災機関として今後もバックアップしていきたい。

実施期間

昭和53年～24年間

団体の概要

八戸地域広域市町村圏事務組合を構成する13市町村内（八戸市・三戸郡10町村・上北郡2町）の少年消防クラブで構成。クラブ数：27、クラブ員：1，000名。

事業費

323，550円

▲ページトップへ

Copyright © INSTITUTE OF SCIENTIFIC APPROACHES FOR FIRE & DISASTER All Rights Reserved.